



「日本一」満喫して

「日本一」 静岡の今

静岡県には「日本一」がたくさんある。冬の晴れた日、「日本一高い」富士山と「日本一深い」駿河湾を眺めながら、「漁獲量日本一」のサクラエビを食べるといっていいかなハイキングに出かけた。

JR東海道線・興津駅で下車、徒歩で旧東海道から薩埵峠を越え由比駅まで。時刻表では1駅6分間を約3時間もかかったが、薩埵峠から眺める富士山と駿河湾の風景は、筆舌に尽くし難いから書かない。

その青い鏡のような駿河湾を「超大型台風」が襲ったのは、10月22日深夜だった。翌23日未明、駿河湾入り口の御前崎市に上陸したが、超大型台風が日本列島に上陸するのは観測史上初めてだった。県内の沿岸部は高潮と高波で大きな被害を受けたが、中でも東名高速道路と国道1号の2本の大動脈が駿河湾と最も接近する由比付近の被害は深刻だった。波よけの防止柵約4ヶ所の50カ所が高波で壊れ、ガードレールも約1ヶ所が損傷した。このため2本の大動脈はしばらく通行不能となった。

海岸に近い由比漁港の荷さばき施設は、サクラエビなどを水揚げする場所の扉が高波で破損し、浸水で製氷機などの設備が使用できなくなった。

県産サクラエビは由比港漁協と大井川港漁協(焼津市)に所属する120隻が春秋2漁期の操業で水揚げする。今年の秋漁解禁は10月25日の予定だったが、台風の影響で遅れ2漁協の体制が整ったのは2週間後。由比港漁協では水槽施設が台風の影響を受け、名物「活き桜えび」の販売を中止した。

薩埵峠から見下ろす由比海岸沿いの東名高速道路と国道1号には、この日もおびただしい車が流れていた。数隻のサクラエビ漁船が駿河湾に出航して行く。その全景を、雪化粧の富士山が見下ろしていた。

(前静岡県監査委員・
富永久雄)

富士川河川敷で天目干しのサクラエビ。全日写連・村越敏治さん撮影